Dr.米谷&真崎のリレー講座

患話休題

かんわきゅうだい

15

院長
真崎 雅和

口の中、気になりますか？

耳鼻咽喉科は、口腔の病気も一応専門ということになります。口腔外科というのは歯科の領域の分類で、本来歯の病気とそれに関連した領域に限定した分野での治療に限られ、口蓋、舌、咽頭、唾液腺の医療は耳鼻咽喉科が扱います。

さて口の中の病気というのは、案外原因も治療法もはっきりとわかっていないものが多いので、実は耳鼻咽喉科医にとってもなかなか厄介な領域です。ただみなさんがもっとも心配であろうがん（舌がん、口腔底がん、頬部がん、咽頭がん等）の診断は比較的容易で、経験のある耳鼻咽喉科医であれば見ただけで見当がつきます。また治療も、多くは外科的な処置が必要ですが、早めに治療すると完治する例が比較的多いといえます。

厄介なのは舌のぴりぴり感、しびれ感、渋み、乾燥、あるいは味覚の変化・減退といった感覚の異常です。また舌の色の異常（斑の赤み、白いあるいは黒い舌苔）を気になさる方もいます。なかには口内炎を繰り返すという方もいます。口臭を気にして来院される方もいます。なかにはよく知られている病気であることもありますし、病名をつけるのが難しいものもあります。しかもいずれも有効な治療法が少ないのが実際です。

もっともポピュラーなのは、表面に白い膜が張り外周に赤い小さな痛みを伴う斑点＝アフタ性口内炎で、全人口の2割は経験するといわれています。原因はわかっていません。塗り薬、噴霧剤、場合により内服薬で1週間以内には跡形もなく治ってしまいますが、何度も繰り返すので、煩わしい思いをしている方も少なくないでしょう。しつこく繰り返す場合で、眼や皮膚の紅斑を伴うものはベーチェット病という厄介なものも考えられます。小児で発熱を伴う場合はヘルパンギーナ（コクサッキーウイルス等）を疑います。

アフタは一個一個が独立しているもので、数個がくっついて大きくなっていくものは、単純ヘルペスウイルスIによるものや、大腸の病気（クローン病）が考えられます。

範囲がひろがり、赤くただれた（びらん）場合はウイルス（帯状疱疹、単純ヘルペスII）を考えます。こすると表面の粘膜が簡単にはがれてくる場合は皮膚の異常（天疱瘡）であることがありますが、これは遺伝性です。

えぐれたように赤くなっている場合は潰瘍で、がんを含めて厄介で治りにくい場合が多いので、組織をとって調べることになります。免疫力がひどく低下している場合はカビ（カンジダ）でもみられるので、菌の検査も必要です。

急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30〜12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 2:30〜5:30	○	○	○	休診	○	△ 2:30〜4:00	

真崎耳鼻咽喉科医院
TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3